

公 民

1 学習指導と評価の改善・充実

～ 指導と評価の一体化～

公民科においては、社会的事象に対する客観的で公正な見方や考え方を深めるとともに、人間としての在り方生き方について考え、自己の確立を促すことが大切である。そのため、科目の特性や生徒の実態を踏まえて内容を厳選し、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、生徒の主体的な学習を重視する必要がある。

このような学習活動を進めるに当たっては、知識や技能はもとより、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力を適切に評価し、生徒の学ぶ意欲を喚起することが大切であることから、観点別学習状況の評価における「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「資料活用の技能・表現」、「知識・理解」の4つの観点を基本とした、目標に準拠した評価の充実に努める必要がある。

こうした評価を行うためには、学習指導のねらいを明確にし、そのねらいの実現のために内容をどのように配列し、どのような指導を行い、いつ、どのように評価を行うかについて事前に計画し、さらに、その評価結果を基に学習指導の改善を図るという、Plan(計画) Do(実践) Check(評価) Action(改善)のマネジメントサイクルを積み重ねて、指導と評価の一体化を一層充実させることが大切である。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～ 授業改善の視点と方策～

公民科においては、指導と評価の一体化を図り、「確かな学力」を育成するため、生徒の主体的な学習活動を的確に評価することが極めて重要である。そのため、発表の記録、報告書、レポート、ワークシート、ペーパーテストなど様々な評価方法を有効に組み合わせ、生徒の到達状況を把握することが大切である。特に、ペーパーテストは、信頼性や客観性の観点から最も多く用いられている評価方法であり、その作成に当たっては、「知識・理解」だけでなく、「思考・判断」、「資料活用の技能・表現」の観点についても評価できるよう工夫・改善を図っていく必要がある。

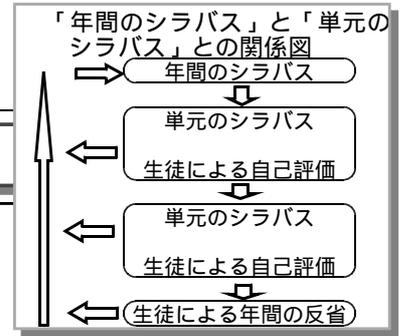
また、指導と評価を計画的に進めるためには、シラバスの活用は効果的であるとされており、本道においても、約7割の公立高等学校においてシラバスが作成され、年度当初の各教科・科目のガイダンス等に活用されている。しかし、年間を通して活用されていないなど、シラバスの機能を十分生かしきれていないという現状にある。

シラバスは、生徒にとって学習意欲を高め効果的な学習目標を立てることができるものであり、教師にとっても学習指導のねらいを明確にした計画的な教育活動を行うことができ、さらに授業改善に生かすことができるものである。

こうしたことから、本手引においては、指導と評価の一体化を進め、「確かな学力」を育成するため、「シラバスの改善の視点」、「ワークシートの活用と生徒による授業評価」及び「ペーパーテストの工夫・改善」について具体的な事例を紹介する。

(1) シラバスの改善の視点

年間のシラバス



教科：公民科 科目：現代社会 単位数：2 普通科1学年

学習のねらい

- ・現代の社会と人間について理解を深めること。
- ・現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断すること。
- ・人間としての在り方生き方について考えること。
- ・平和で民主的な社会生活の実現に向けての国際社会の形成者として、能力や態度を身に付けること。

授業の心構え

- ・授業で取り上げた様々な課題について、自ら進んで考え、積極的に発表するようにしましょう。
- ・学習した事柄を、生きた知識として生涯の宝とするため、自分自身の在り方や生き方と結び付けて考えるようにしましょう。

「現代社会」では次の項目をもとに評価を行います。(評価の観点の趣旨)

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対して関心を高め意欲的に課題を追究しているか。 ・社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加・協力する態度を身に付けることができるか。 ・現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見いだすことができるか。 ・社会的事象の本質や人間としての在り方や生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察することができるか。 ・社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断することができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集することができるか。 ・有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けることができるか。 ・追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現することができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる事柄や学び方を理解し、その知識を身に付けることができるか。

生徒が1年間の学習内容の流れ等について、大まかに理解できるよう「年間のシラバス」を作成する。また、生徒や保護者が理解しやすいよう、「年間のシラバス」の内容を精選することが大切である。さらに、生徒がいつでも学習の流れや内容、到達目標等を確認できるよう活用方法についても指導することが大切である。

この科目の「評価の観点の趣旨」を示すことで、学習内容のポイントを明確にし、生徒が目標を設定しやすいようにすることが大切である。

「現代社会」1年間の学習の流れ

月	単元	学習内容	単元の到達目標
4	ガイダンス	・1年間の「現代社会」の学習について説明します。	・「現代社会」の学習のねらいや評価について理解することができる。
5	現代に生きる私たちの課題	・現代社会の課題について、様々な資料を活用しながら調べ自分なりの意見を持ち、まとめたことを発表します。	・自己とのかかわりに着目しながら課題を設定し、様々な観点から調べ、自分なりの意見をまとめることができる。
12	工) 国際社会の動向と日本の果たすべき役割	・世界の主な国の政治や経済の動きを踏まえ、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義などを理解し、国際社会における日本の役割や日本人の在り方について考えます。	・国際平和や国際協力の必要性や国際組織の役割について理解し、国際社会における日本の果たすべき役割や日本人の生き方について考えることができる。
1			
2			
3	まとめ 「現代社会」の学習を振り返って	・1年間の学習で学んだことや興味を持った事柄から現代社会の課題を設定し、自分なりの考えをまとめていきます。	・自分で課題を設定し、様々な資料を収集して、様々な角度から考え、自分なりの意見を発表することができる。

生徒に単元ごとの学習内容や評価方法、単元の到達目標を明確に提示し、学習の動機付けを図ることが大切である。課題追究学習を行うこととされている「現代に生きる私たちの課題」については、「単元のシラバス」を作成し、次ページに示した。

人権を取り扱う際には、特に生徒にとって身近で具体的な事例を通して、命の大切さを理解させることが大切である。

単元のシラバス

「現代に生きる私たちの課題」配当時間 9 時間
年 組 氏名 _____

「単元のシラバス」では、生徒の学習意欲を喚起する評価の機能を生かすため、学習のまとめりごとに生徒に身に付けさせたい力を到達目標として具体的に示すことが必要である。また、生徒の学習の振り返りを促すとともに、授業改善を図るため、単元の終わりには、生徒に自己評価を行わせるなどの工夫を図ることが大切である。

単元の学習のねらい

自己とのかかわりに着目して課題を設定し、様々な観点から調べ、自分なりの意見をまとめ、他の人にわかるように説明することができる。

「単元の学習のねらい」は、前ページの「単元の到達目標」から引用する。

	学習のねらいは達成することができましたか。	評価
自己評価	自己とのかかわりに着目して、課題を設定することができましたか。	
	様々な視点から資料を収集して、課題について調べることができましたか。	
	自分なりの意見をもって、調べたことをまとめることができましたか。	
	資料を活用して、調べた内容を分かりやすく説明することができましたか。	

「自己評価」の項目は、「到達目標」との整合性を図り作成する。

自己評価は、学習のねらいを A (とても良くできた)、B (できた)、C (あまりできなかった)、D (できなかった) で評価します。

時程	学習内容	到達目標	評価の方法
1 / 9	【モデリング】 ・「豊かな生活と福祉社会」を題材として、課題を設定し、追究する学習の例をもとに、課題の調べ方や資料の収集などの方法について学びます。 【課題の設定】 ・「地球環境問題」をテーマとし、「オゾン層の破壊」「地球の温暖化」「砂漠化」「酸性雨」の中から、具体的に調べる課題を選び設定します。	・課題追究学習の方法について理解することができる。 ・身近な事柄や実生活と結び付けながら課題を設定し、設定した理由を記入することができる。	ワークシート
3 / 9	【課題の追究】 ・設定した課題を調べるために、どのような資料をどのような方法を用いて収集し、どのように活用するか、ワークシートにまとめていきます。	・様々な視点で課題を追究するため、資料の収集や活用の方法について計画を立て、ワークシートにまとめることができる。	ワークシートまたは報告書

「モデリング」では、課題の調べ方や資料の収集・選択、まとめ、発表の方法など、課題追究学習の進め方について理解させることが大切である。その際には、過去の生徒の失敗事例なども示すことで、生徒の理解が一層深まると考えられる。

	・調べた内容、課題に対する自分の意見などをワークシートや報告書にまとめ、発表の準備を行います。	・収集した資料を効果的に活用しながら、調べたことをワークシートや報告書にまとめることができる。	
4 / 9	【研究発表】 ・課題について調べた内容を自分の意見を含めながら発表します。 ・他の生徒の発表を聞き、自分なりの考えを持ち、質問や意見を述べていきます。 ・課題追究学習について、自己評価表に記入をします。	・発表に用いる報告書を作成することができる。 ・他の生徒も理解しやすい報告書を作成することができる。 ・資料を分析した内容を分かりやすく説明することができる。 ・課題についての結論を分かりやすく説明することができる。 ・調べた課題に対する自分なりの意見を説明することができる。 ・他の発表をきちんと聞くことができる。 ・他の発表を聞きながら自分なりの考えを持つことができる。	ワークシートまたは報告書
1 / 9	【まとめ】 ・課題追究学習を通して、反省点や今後追究したい課題などについてワークシートに記入します。	・これまでの課題追究学習を振り返り、新たに追究したい課題を設定することができる。 ・反省点や今後追究したいと考えた課題について記入し、その理由も書くことができる。	自己評価表
1 / 9			ワークシート

「到達目標」は、生徒が学習のポイントを把握したり、自己評価をしたりする上で役立つよう、分かりやすい表現で示すことが大切である。

「自己評価」を通じて、学びの振り返りを促し、生徒に学び方を習得させるとともに、評価結果を参考に授業改善を図ることが大切である。

(2) ワークシートの活用と生徒による授業評価

単元の指導計画(6時間)			
単元の目標	情報社会における倫理的課題を、自己の課題とつなげて追究させ、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。		
指導段階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
課題設定 2時間	班(6~7名)ごとに、情報社会において便利になった点や問題点を、KJ法により整理し、課題追究するテーマを設定する。 ワークシート1	生徒にとって身近な問題をできるだけ多く挙げさせる。	関心・意欲 態度
	各班が、設定したテーマとその理由について発表する。各班の発表について相互評価した内容をワークシートに整理する。 ワークシート2	発表の評価を次回の発表に生かすようにさせる。	資料活用の 技能・表現
課題追究 3時間	設定したテーマについて、課題やその課題解決の方策を、様々なメディアを活用して調べて整理し、班の中で話し合う。 ワークシート3	多様なメディアを活用させることと併せ、収集した情報を無批判に受け入れることのないよう指導しながら、多面的・多角的に考察させる。	資料活用の 技能・表現 思考・判断
	前時の話し合いを踏まえて、いままで学習した先哲の思想と関連づけて、情報社会における自らの在り方生き方について考える。 ワークシート4	問題の本質や課題解決方法等の視点を意識させる。	思考・判断
	発表するときの提示資料や発表原稿を作成する。	分かりやすい説明ができるよう工夫させる。	資料活用の 技能・表現
まとめ 1時間	班ごとに発表する。自分の班の発表及び他の班の発表について評価する。 ワークシート5 生徒による授業評価票	評価を踏まえ生徒に再度考えさせる。	資料活用の 技能・表現

学習指導要領「ウ現代の諸課題と倫理」では、「生命と環境」「家族・地域社会と情報社会」「世界の様々な文化の理解と人類の福祉」の三つの群から一つずつの課題を選択して学ばせることとなっている。ここでは、「情報社会」を課題として選択した事例を紹介する。

観点別に具体的評価規準を設定し、単元のねらいの実現状況を把握する必要がある。また、1つの単元の中で、4つの観点をバランスよく評価することができるようにすることが大切である。

ワークシート(枠内は生徒の回答記入例)

1 情報通信機器の発達によって、私たちの生活において便利になった点や問題点を、KJ法により整理し、追究するテーマを設定する。

【KJ法の進め方】

- (1) 班員それぞれが、便利になった点をピンクの付箋に、問題点を黄色の付箋に書く。(1枚に1つ)
 - (2) 班員が書いた付箋を模造紙に貼りながら、同じ内容のものを1つのグループにまとめる。
 - (3) グループごとにまとめたもの同士の間を線で結び図式化し分かりやすくする。
 - (4) (3)で作成したものを見ながら、班として追究するテーマを設定する。
- 付箋の内容から、便利になった点と問題点を整理する。

便利になった点

・携帯電話は相手と連絡をとるのに大変便利。

問題点

・携帯電話の通話料を負担するのが大変。

テーマ

携帯電話の普及に伴う課題について

自己の課題とのつながりとテーマ設定の理由

携帯電話の普及により様々な問題が起こっているため、どのような使い方をする必要があるか考えたかったから。

2 各班の発表について参考になった点や工夫している点をまとめる。

・1班はインターネットの利用にかかわって便利な点と問題点が明確で、設定したテーマも分かりやすかった。

3 調べた内容について、分かった点と不明な点を整理し、まとめる。また、不明な点について、今後どのような調べ方(対策)が考えられるか書く。

分かった点

・携帯電話の機能の拡大 肖像権や著作権

不明な点とその対策

・個人情報の管理について

4 情報社会における自らの在り方生き方に、いままで学習した先哲の思想と関連づけてまとめる。

インターネット上は匿名性が高いので、論語に「己の欲せざるところ、人に施すことなかれ」とあるように、自分が望まないことを他人にはしてはいけない...

5 自分の班や他の班の発表を評価する。

班 評価 A たいへんよい B よい C 多少 D もっと努力

- 1 内容が順序よくまとまっていたか A・B・C・D
- 2 資料の提示は適切であったか A・B・C・D
- 3 いろいろな視点から考察しているか A・B・C・D
- 4 分かりやすい説明であったか A・B・C・D

5 感想(発表の良かった点や改善点など)

テーマ設定においては、生徒が自己の課題意識に結び付いた課題設定ができるよう助言するなどの援助が必要である。

情報収集に当たっては、情報モラルや著作権、プライバシー保護、セキュリティ等についても配慮する必要があることについて理解させるなど、情報活用能力を養うよう留意する。

既習の先哲思想を踏まえた上で、情報社会の光と影について、多面的・多角的に考察することがポイントとなる。

自己評価や他者評価を行うことによって、自己の課題や改善点を明確にし、次の学習に生かすことが大切である。

生徒による授業評価票の例

A 良く当てはまる B 当てはまる C あまり当てはまらない D まったく当てはまらない

授業への取組について

具体的な評価項目	評価
1 授業の予習や復習して授業に臨んだ。	
2 疑問点は質問するなどして解消に心がけた。	
3 積極的に自分の考えを述べる事ができた。	

授業内容について

具体的な評価項目	評価
1 授業の資料やプリントが工夫されていた。	
2 興味・関心が高まるよう工夫された内容だった。	
3 シラバスに書かれているとおりの授業であった。	

授業の進め方について

具体的な評価項目	評価
1 先生の説明や指示が分かりやすかった。	
2 生徒の発言を大切にし、質問に答えてくれた。	
3 授業の進む早さがちょうどよかった。	

感想

生徒による授業評価を行うに当たっては、授業に対する多面的な評価が得られるよう評価項目を工夫するとともに、生徒自身の授業への取組を自己評価させるなどの工夫も大切である。

生徒による授業評価を授業改善に生かすためには、単元ごとに評価を行うなど、年に複数回実施し、授業評価を分析する必要がある。そのためには、生徒の評価を点数化しグラフや表にまとめるなど、変化が一目で分かるように工夫することも大切である。また、教師自身の自己評価やワークシートの記入状況、ペーパーテストの結果も、授業改善に生かしていくことが大切である。

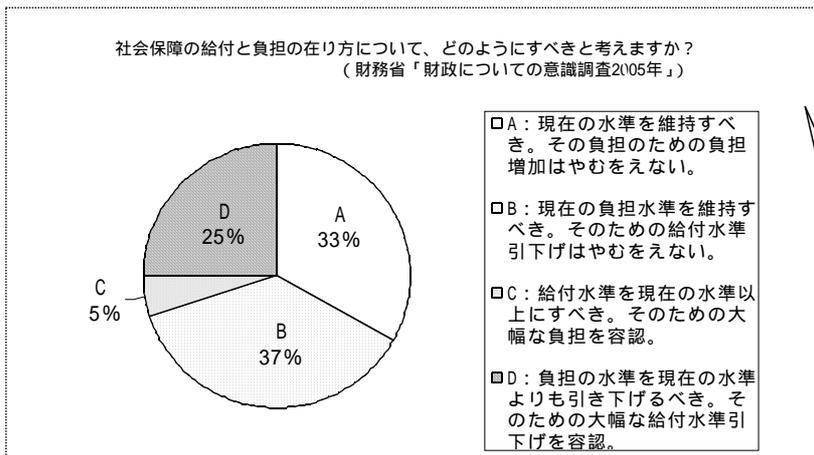
(3) 「思考・判断」や「資料活用の技能・表現」の観点の評価するペーパーテストの工夫・改善

問1 日本の発展途上国への経済援助は、「有償による援助」と「無償による援助」のどちらがよいと考えますか。その理由も答えなさい。

出題のねらい
経済援助は、発展途上国の自立が大きな目的である。そのため、わが国の経済援助はどうあるべきかを表明させ、その理由を答えさせる。様々な立場、考え方を踏まえ、公正に判断させることを出題のねらいとしている。

採点の観点
自分の考えを論理的に記述しているか。
考えと理由に整合性があるか。
経済援助について正しく理解しているか。

問2 次の資料を見て、下の問いに答えなさい。



出題のねらい
社会保障の水準や負担の在り方に対する国民の意識が大きく分かれていることを示す資料をヒントに、自らの考えを表明させ、その理由を答えさせる。さらに、その考えの根拠となる資料等を答えさせる設問である。多面的・多角的に考察し、有用な資料を収集・選択させることを出題のねらいとしている。

採点の観点
自分の考えを論理的に記述しているか。
考えと理由に整合性があるか。
根拠となる資料を適切に選択しているか。
社会保障や財政について正しく理解しているか。

- あなたは社会保障の給付と負担の在り方をどのようにすべきと考えますか。
- その理由を書きなさい。
- あなたの考えの裏付けとなる資料として、どのような統計やデータが必要ですか、具体的に書きなさい。

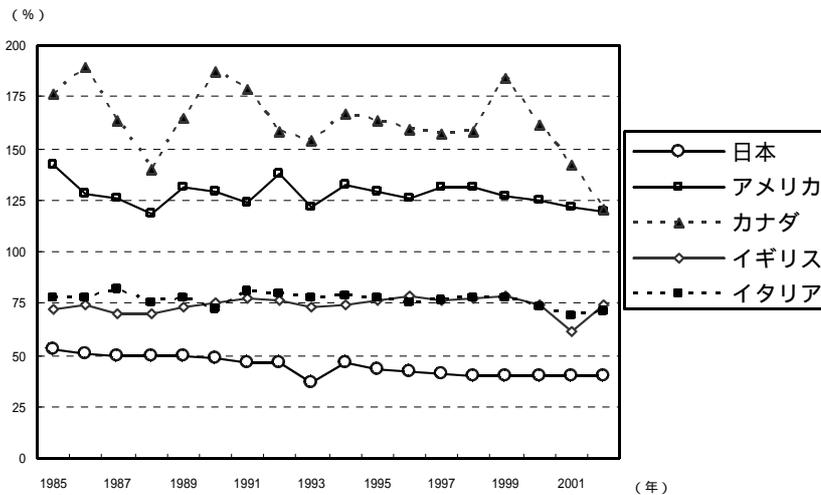
問3 「わが国の農業の自由化」について、「賛成」か「反対」のいずれかの立場を選び、その理由を書きなさい。ただし、理由を記述する際に次の資料1～4から、適切な資料を選択し、活用すること。

資料1 食料品の小売価格(2004年)(単位米ドル)

	小麦粉 (1kg)	白小麦パン (500g)	牛乳 (1L)	バター (250g)	鶏卵 (1ダース)	マーガリン (250g)	りんご (1kg)	ばれいしょ (1kg)
日本	1.72	1.95	1.94	3.65	2.46	1.32	5.07	2.45
アメリカ	0.66	1.07	0.84	2.02	1.09	0.48	2.19	0.99
カナダ	1.11	0.98	1.25	1.54	1.70	0.71	2.40	0.58
イギリス	0.82	0.75	1.14	1.47	3.06	0.77	2.25	1.52
イタリア	0.63	1.27	1.60	2.19	3.05	0.71	2.89	1.11

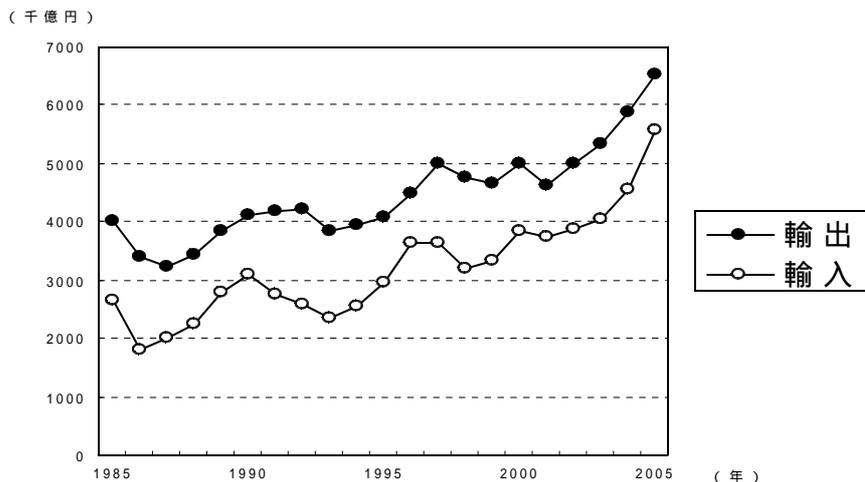
「世界の統計2006」より作成

資料2 供給熱量総合食料自給率



農林水産省「平成16年度食料需給表」より作成

資料3 わが国の貿易収支



財務省「国際収支状況」より作成

資料4 耕作放棄農地

年	1975	1980	1985	1990	1995	2000
面積(ha)	99,104	91,746	96,807	150,655	161,771	210,019

注:「耕作放棄地」とは、以前耕作したことがあるが、調査日前1年以上作物を栽培せず、しかも、この数年の間に再び耕作するはっきりした意思のない土地

「農林業センサス累計統計表(明治37～平成12年)」より作成

出題のねらい

農業の自由化をめぐる対立する概念をテーマにして、自己の立場を明確にし、その立場を説明するために適切な資料を選択・活用するとともに、自己の考えをまとめ、表現させることをねらいとしている。

採点の観点

自己の立場を明確にしているか。
資料1から4の資料を適切に選択・活用し、情報を正しく読み取っているか。
わが国の農業をめぐる様々な課題について正しく理解しているか。
主張の内容が論理的に構成され、記述しているか。

資料の追加

「国内産、外国産の農産物に対する消費者の意識調査の結果」や「農業者所得と他産業の所得を比較するグラフ」などを追加資料として提示することにより、さらに多面的・多角的な見方や考え方を引き出すことが可能になる。

設問の変更

生徒の実態に応じて、次のように変更することも可能である。

資料から読み取れることを問いとして設定し、その問いをヒントに自分の考え方をまとめさせる。

「食料品の価格」、
「食料自給率」、
「貿易黒字」、「国土保全機能」など、使用する語句を指定する。

提示する資料を2つに絞り込む。

など